

視 座

今、地域学がおもしろい

新しい時代を拓くキーワードとして

地方分権一括法が四月一日から施行され、分権改革がいよいよ現実の歩みを始めた。地方分権のねらいは、地域が自主的、主体的に地域づくりに取り組み、地域に活力がみなぎることにあるといわれている。四月十三日に開催された地方分権と地域連携によるまちづくりを模索、提案するシンポジウム「二十一世紀のふるさとづくりを考える」では、「市町村が主人公の時代、まずは「人づくり」から」という方向で意見が集約されていた。

自立した市民（地域を作り上げているという自覚と責任をもった住民）の育成は戦後の成人教育の重要な課題でもあった。生涯学習という言葉は一九六五年（昭和四十）ころから使われ始めた。当初は激しい社会の変化に適応するための学習の必要性が強調されてきたが、現在では、学習は自分自身の歴史や生活を創造する主体と変えていく意志の表現であるといわれている。「適応」から「創造」へと生涯学習の意味も変化している。

本稿で取り上げる「地域学」はまさしくこのような時代環境の中で、新しい時代を拓く一つの糸口になり得るものではないだろうか。最近、横浜学や愛媛学、長崎学など地域の

名前を冠した地域学と呼ばれる活動が各地で盛んになってきている。自分の住む地域の歴史や文化、産業、自然などを見つめ直し、地域の魅力や可能性を発掘しようとするものがある。ここでいう地域学は、東南アジアの地域研究など海外の地域の総合的研究（エリアスタディとかリージョンナルスタディ）とは異なり、生涯学習の分野で実践されているところに特徴があると言える。

全国各地で多くの地域学が実践されているが、実施主体は県や市町村などの行政、大学等高等教育機関、NPO等の市民団体と多様である。それぞれの地域学は独自の目的や方法をもち活動を展開しているのが実態である。ここではあえて地域学の類型化を試みようと思わないが、山形県生涯学習センターがこれまで実践してきた過程を事例として紹介しながら地域学の方向性について提案を試みたい。

地域学の一つである山形学は、山形県生涯学習センターの先導的な学習講座として構想され、センター開所の平成二年度より継続実施しているものである。県民が自らの地域について学ぶ（地域を知る）ことを通じて、ア

イデンティティーを確かめ（地域を認める）、さらには地域の未来像を描き、実現させていくための推進力となること（地域を創る）を目標とするものである。

これまで県生涯学習センターが取り組んで来た山形学振興事業は、次の四つの事業から成り立っている。第一に、センターが主催する山形学講座の実施である。第二に、山形学の普及啓発を図る目的で実施する山形学シンポジウム、第三に、県内各地の教育委員会や団体等と共催実施する山形学地域連携講座、そして、山形学講座の内容を広く県民に発信するための「遊学館ブックス」の発行である。これらの事業を通して山形学の振興に努めてきた。ここで、山形学講座の講座の変遷について概観してみると、最初の五力年（平二一六）は主として、「山形を知る」ことをテーマとして、講義中心の学習形態が多かった。その後の五力年（平七〇一）は、「山形でどう生きる」かにテーマが変わり、複数の実践者による話題提起と参加者とのディスカッションを基調とする学習に変化してきた。今年度からは、これまでの十年間の実践を土台にししながら、「山形を創る」というテーマにどのよ



(財)山形県生涯学習文化財団
小田島 健 男

山形学の講座の推移

	第1期(平成2~6)	第2期(平成7~11)
テーマ	山形を知る	山形でどう生きるか
講師	単独(専門家中心)	複数(実践者中心)
学習形態	講義中心	パネルディスカッション中心
学習活動	「きく」	「きく」「はなしあう」
企画委員の役割	講演講師	コーディネーター・パネリスト



うに迫っていくか、その際の学習プログラム(内容・方法・講師等)をどのように編成するかについて、現在研究している段階である。それと同時に、「一人山形学」の目標を達成するための手立てについて検討しなければならない。

また、当センターでは、NPOまなびネット講座(地域づくりグループ広域連携学習事業)も実施しているが、これは地域づくりグループが数団体が連携し、地域課題や生活課題に関する学習機会を県民に提供する事業、換言すれば、県民が県民のための学習機会を提供する事業であるが、これも地域学の範疇に入るものであると考え

られる。

本年九月に当センターを会場として「全国地域学交流集会」を開催する予定である。全国の仲間が集い合い、情報を交流しながらそれぞれの地域学の振興を図ることを目的とするものである。"であい、ふれあい、わかちあい"の下に、四つの出合いの広場(県等での取り組み、市町村での取り組み、総合的学習の時間等学校での取り組み、NPO等市民団体の取り組み)を準備するとともに、全体会では山形学の歩みについて報告していく予定であ

る。これらの経験を踏まえて、平成十三年に本県を会場として開催される全国生涯学習フェスティバルの関連事業として、「全国地域学サミット」を実施する予定であり、現在も準備委員会を組織して事業内容等企画を検討し始めた。山形の学習活動を中核にししながら、山形らしさを全国に発信する絶好の機会であると考えている。できることなら、山形県が地域学のメッカとして位置づけられることを願ってやまない。

「県民(住民)が主役」とが「住民参画による地域づくり」の必要性が強く叫ばれてから久しい。その基盤づくりに住民が自らを高める学習活動、とりわけ地域の課題や生活課題に関する学習の持つ意義が重要になると思われる。生涯学習で実践している地域学がその環境づくりの重要な一翼を担っていると、わたしはひそかに確信している。

地域を楽しく学び、それぞれの地域の良さを発見し、お互いにその成果を発信しあい、後輩に伝えていく営みとしての活動にあなたも参加してみませんか。「一人山形学」の実現に向けて。

小田島健男

(財)山形県生涯学習文化財団 学習振興部長
1943年岩手県花巻市生まれ

1970年山形県青年の家勤務。以後、県教育庁社会教育課、県教育センター社会教育部を経て、1994年から生涯学習関係の業務に従事、現在に至る。